

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

グラウンドワーク三島 第1回



受賞!

2月11日、NPO法人グラウンドワーク三島は第1回「地域再生大賞」を受賞した。この賞は、地域活性化に取り組む団体を支援しようと共同通信社と全国の地方新聞社が創設したもので、水辺自然環境の再生を目指すグラウンドワーク三島はその活動が高く評価され、この大賞につながった。主催は、「地域再生大賞」実行委員会(共同通信社と加盟新聞46紙)。協賛は、農林中央金庫、三井住友銀行、第一生命保険。後援は、総務省、国土交通省、内閣府、農林水産省、厚生労働省、文部科学省、環境省、全国知事会、全国市長会、全国町村会。



岡本義行選考委員長らがGW三島を審査に訪れた時、実践地で様々な活動をしている地域の方たちとの出会いもあった

共同通信社と地方新聞46紙が、都道府県ごとに原則1団体ずつ計50団体を推薦し、識者らで作る大賞選考委員会により決定した。内訳は、大賞1、準大賞2、ブロック賞6、特別賞6、優秀賞35。

地域の課題解決に向けて、住民と企業、行政が理解を深めながら協働で取り組む英国発祥のグラウンドワーク活動を、日本で最初に導入し、水辺環境の再生などに成果を上げており、昨年夏からは内閣府の「地域社会雇用創造事業」の担い手の1団体として、起業や新しい層の雇用創出を促す人材育成を進めていることなども評価された。2月25日には東京の都市センターホテルコスモスホールで表彰式が開催され副賞として100万円が贈られた。その後、「全国に広がれ『地域の元気』」のテーマでシンポジウムが行われた。懇親パーティーではGW三島のハッピーでGW三島をPRし、大いに交流を深めることができた。

2月28日、「美しく魅力あるまちを手を携え築いていきたい」と語る豊岡武士三島市長に受賞を報告。
3月4日に、川勝平太静岡県知事に受賞報告の予定だが、東京での表彰式の帰りに東京駅で偶然知事に会い「おめでとう」とお祝いを言われた。



GW三島は19年間、三島の代名詞にもなっている「せせらぎ」「協働」のけん引役となってきた。実践地は源兵衛川を含めて53カ所。せせらぎや緑がもたらす空間を求めて人が歩き、集まり、様々な催しや交流の輪が生まれ、点から面への広がりを持った活動は、他に類を見ないと高く評価された。

清流がよみがえった源兵衛川そのものが、ふるさとの原風景になっている若者や子どもたちも、GW三島の活動に参加し、「日本の元気」につながる先見性、創造性のある未来に引き継がれている。

II期グラウンドワークインターンシップ ロビン・ヘンショウ氏も講師に



エリザベス女王からの叙勲時の大切な1枚(持参の写真)



念願の中郷温水池で、趣味のバードウォッチング

II期GWIのA日程2月9日に、I期に続きロビン・ヘンショウ氏も講師を務め、大好評だった。講義終了後は、つかの間の日本での休暇を過ごした。



参加者との交流



富士山にもご対面



交流会には、GW三島のTシャツで登場!



英国でマネジメント研修

I期グラウンドワーク・インターンシップ(GWI)修了生を対象とした、エキスパートコースのマネジメント視察研修が、英国で2月13日～19日の7日間行われた。参加者14名は英国のグラウンドワーク活動や社会的企業を視察し、多国籍の若者との意見交換を通して、先進的な社会的企業と国際的な合意形成についても学んだ。



英国で対応してくださった講師陣
左から、ロビン・ヘンショウさん、
小山善彦さん、松下重雄さん

1日目・ロンドンのホテル集合 2日目・グラウンドワーク テムズ・バレー視察、オックスフォードに移動 3日目・ブランケット財団訪問 (英国の農村における社会的企業の発展と役割)、タックレイ村訪問 (タックレイ村ショップの起業と経営) 4日目・コッツウォルズの歴史や文化を活用した街づくりを視察 5日目・グラウンドワークUK幹部へのインタビュー、ロンドンの歴史や文化を活用した街づくりを視察 6日目・ソーシャル・エンタープライズ・ロンドンでの講義とディスカッションや質疑応答 7日目・朝食後ロンドンで解散

参加者14名：市川哲也、猪股秀男、内田秀文、川口瑠衣、久保悟史、倉橋正記、栗原史紗、栗原祐里、白井忠志、高木正志、長友智郷、藤井太郎、堀川 渉、守屋司子 (敬称略・50音順)

英国研修 印象



☆守屋司子さん

私は、長年、環境教育の分野に関わっています。

今回は、本場の社会的企業がどのようにスタッフを教育しているのかに興味があり、採用や配置の極意なども学んできました。

歴史ある建物に囲まれた英国では、社会的弱者を再教育し社会に復帰させるなど、地域の問題を解決し地域を良くしようと、起業して頑張る老若男女の姿がありました。



☆栗原史紗さん

幼児の時から母と、農業やまちづくり活動に参加してきました。

英国のGWだけではなく、自転車産業を担う人材育成をしている社会的企業やビレッジショップ等様々な話を聞きました。特に印象的だったのは、GWテムズバレーの担当者が人形を使って資金調達係に必要な6つのスキルを説明してくれたこと、GWUKで、活動の評価をする際に効果(変化)を数値化して相手に伝える方法です。論理的かつ計画的に物事を進める大切さを学びました。



I期GW I 集合研修のA日程参加者の声

♥80歳のMさんは、GWIの説明会で「年齢制限なし」と聞き、「参加します」と即答した。独学で始めた自身のHPを毎朝5時には更新している。講義や参加者のどんな話をもICレコーダーで録音し、静岡市からの電車の中で聞き反復学習。今回は、一緒に活動を拡大しようと考えている仲間にも呼び掛けて参加。

「人生は 喜びありて 生きるもの 人の生まれし 心求めて」を信条にしている。戦後、電気屋として独立し、今も現役。「縁を深めて、いつでも、にっこり仲良くしていくことが人生」「すぐにやる」「過保護はダメ」「家族を大事に！」Mさんから学ばせていただく人生学も、参加者にとって貴重だ。



♥静岡県内の市行政マンのAさんとKさんも、仲間と参加。ワークショップで、いろいろな人と話せて、自分の考えをブラッシュアップできたと思います。「市のプロジェクトを、市民協働で是非成功させたい」「まずは、川の再生と、農地の再生ですね」「市民が自ら立ち上がるという、市民パワーを生かせればと思います」生き生きとした発言が続いた。

♥「仕事で三島にはよく来ていたんですよ」と言うTさんは、「今回の研修でNPOの根底を見た感じです。こうやっていくのかと、本筋を見た気がします。本当のスタイルを学べて、良かったです」と感想を述べてくれた。



旭川の、和の小物創り「里」のみなさん

♥北海道から参加の5人の女性たちは縫物などが上手で、既にいろいろ始めている。「子供さんたちへの縫物講座などもあるのですか？」と聞いたら「あっ！それ、いいアイデア」と感心されてしまった。「当たり前と思えることを、きちんとやるのが、実はとっても大事なことだと思っているんです」と、にっこり話すのは、かつて健康上で大変な経験をしたという女性。

腰切不動尊の落慶法要

1月30日、腰切不動尊お堂の落慶法要が豊岡武士三島市長を迎えて行われた。

昨年、雨漏りなどの老朽化が判明し、永久保存のために広く浄財を仰いだ。改修工事を「遊水匠の会」に依頼し、瓦と銅葺の立派な屋根のお堂が完成した。

地域の方々、「遊水匠の会」、日本大学国際関係学部&国際協力研究会の学生、GW三島関係者等多くの参加により式典が行われた。



龍澤寺僧侶の読経の後、除幕式



地元町内会の子どもたちも参加して「しゃぎり」の演奏



大通りで自転車に乗る樋口少年

創業大正2(1913)年の千歳屋3代目・樋口純一さんは、「商店の後継者は勉強するな!」と父親に言われ、「楽しくて仕方がない」子ども時代を送った。

市内の川は全部泳ぎ、玉川池でも泳いだ。蓮沼川(宮さんの川)では、橋の下を一気に潜り抜けるのが男の子の肝試し。水泳以外で、この頃の少年たちの一番の遊びは野球。通学していた南小学校の校庭はもとより、元・社会保険病院があった広い空き地でも野球をした。そこは2mほどの塀に囲まれていて、ボールが塀を飛び越えるたびに、少年たちは両耳を塞いだ。塀の向こうの家に払ったガラス代は、当時のお金で1枚2千円。樋口さんも何回かは親に弁償してもらったそうだ。この当時の遊び場所の塀に書いてあったのが「ロイロイノツミチハ」。「ロイロイノツミチハに集まろう」が少年たちの合言葉だった。後年、これが「ハチミツノイロイロ(蜂蜜のいろいろ)」と分かったときのおかしさ。

大好きな三島を活気づけたい!

株式会社 千歳屋
ひぐち じゅんいち
樋口 純一さん



昭和30年頃の店内で母と姉と



当時、商店の跡取りは南商(現・三島南高校)を卒業すると家業を継ぐというのが普通だったが、勉強するなと言われ続けているうちに勉強したくなり、大学へ進学。卒業後、思いもよらず父親に和歌山の同業店に見習修行に行かされた。1年後に三島にもどってきたが、修行中、大好きな三島のことは忘れたことはなかった。

昔から、化粧品屋と旅館の男は表に出ない、と相場が決まっていたが、今はそんなことは言っていられないとか。県西部から三島を訪れた人は「三島は活気がある」というが、歩行者天国、夏まつり、正月などは別として、実情は違う。三島甘藷を使った三島ブランドの焼酎「チットラツツ」やスイーツの仕掛け人でもある樋口さんは、「表に出ず、常に黒子」に徹している。そして大好きな三島を活気づけたいと考えている。



昭和12年、中央水道給水塔が完成。左は、発起人の看板。純一さんの祖父・樋口鎌次さんの名前もある。



昭和30年頃の三嶋大社で小中島の山車の披露



祝いの席には必ず呼ばれた三島の芸者さん

現在の千歳屋は本町交差点の角にあるが、戦後しばらくの間、駅前からの道は、千歳屋と右隣の山田園(茶販売)が並ぶあたりで突き当たっていた。都市計画のため山田園が移転し、国道1号まで通じる新しい道路が出来、現在に至っている。

当時は交通量が少なく、道の向こう側から自宅へ向かってボールをぶつけて遊べるほどだった。

「三島農村カフェ」1周年記念事業



小雪交じりの前日の天気、まるで嘘のように晴れ渡った暖かな2月13日、「三島農村カフェ」設立1周年記念事業が行われた。箱根の登山口で国道から遥か中に入った奥深い元山中は、大きな家々が建つひっそりとした地域であった。カフェは牛小屋を改装した所だそうだが、広い土間の他に中央に掘り炬燵を配置した和室は、洒落た窓、ふすま、きれいに張られた天井、新しい畳など備え、すっかりきれいな部屋に変わっていた。

60名ほどの参加者は、記念式典後、地域住民やGW三島関係者が、その地域で栽培されたそば粉や野菜を使って作った手打ちそばやけんちん汁、漬物などに舌鼓を打った。会場は賑やかな交流の場となり、その後、グローバル文化交流協会会員が格調高く日本舞踊と琴の演奏を披露し大拍手を受けた。最後にGW三島関係者のハーモニカやリコーダーに合わせ、全員が様々な曲を歌い、楽しいひとときを過ごした。記念撮影を最後に式典は無事終了した。参加者は地産の新鮮なキャベツをお土産にいただき、「三島農村カフェ」の更なる発展を願いつつ、満足げな面持ちで帰途についた。



半田政次さん
(農村カフェの大家)の挨拶



金井自子さんの日舞



田村和幸さんと松田徳子さんの演奏



水野幾子さんの琴演奏



覗き入る聴衆、見入る観衆



ここでも大活躍の「遊水匠の会」のみなさんと大学生たち



つづく日韓交流

「日韓バイカモ交流」で2008年8月に来日した韓国の小学生、**ホン・エスルさん**は、中学生になって英語を学ぶようになり、2008年11月に訪韓して彼女の家にホームステイした**小松幸子(ゆきこ)**GW三島理事とEメール交換をしている。ここでは、新年になってからの交流の一端を紹介。

こんにちは。お元気ですか？私はとても元気です。明けましておめでとうございます。あなたのご健康と長寿をお祈りします。私は日本語をまた勉強し始めました。日本語は私の第2外国語です。



3年前に来日のエスルさん(右)と、小松理事(左)

大ニュースがあります。母が私に約束してくれました。もし今度の数学のテストで満点を取って、理科と社会も96点取れば、私は日本に行かれるんです。母も一緒に行けるといいのですが、飛行機代が高いので、行かれるとしても、多分、私1人でしょう。



「日韓バイカモ交流」で訪韓の折、小松理事のホストファミリーになってくれたエスルさんご一家



最近のEメールで、たくさんの写真を添付しましたが、それらは修学旅行に行った時のものや、友だちや私の写真です。いま私は16歳(韓国年齢)で中学3年生です。あなたのご家族や、2008年に私たちのホームステイを受けてくださった、あの写真の方々によるしくお伝えください。ホストファミリーのお名前を覚えていないんですが、すみません。(ホストファミリーは、中田邦夫・保子夫妻でした！)どうぞ、お元気で。次の機会には、私の家族の写真を送りますね。

こんにちは。お返事が遅くなりごめんなさい。日本で火山が噴火したというニュースを聞きましたが、皆さまは大丈夫ですか？心配です。私は日本語の勉強を始め、今、「これは、それは、あれは～です」や、平仮名、カタカナなど習っています。また、村上春樹の『アンダーグラウンド』を読んでいます。これは1995年3月20日の朝、東京地下鉄で起きた猛毒神経ガスのサリン事件に対するインタビューを集めたものです。まだこの本をお読みでないなら是非お薦めします。では、お体に気をつけて！またお会いしましょう。さようなら。



幸子さま、心配です。どうしてお返事が無いのですか？もしや、ひどい災害では？大雪とか火山の大噴火とか、とても心配です。お返事をお待ちしています。お大事に！

ご心配いただき、ありがとうございます。噴火は新燃岳といって九州にある火山で、ここからは遠いですし、三島は温暖で雪もあまり降りませんので、私たちは無事です。返信が遅くなってごめんなさい。お気遣いに対して、感謝しています。



お元気ですか？私の学校は2日前に始まりました。とても眠いです。なぜなら休暇中はよく1日中寝ていたものですから。今はとても早く起きなくてはなりません。また、添付写真は、いつ撮ったのかしら？あなたと真ん中の男性(名前は忘れましたが)は、とてもお元気そう。安心しました。では、お体にお気を付けください。またお返事ください。さようなら。

かとう まさゆき
加藤 正之さん

川からまちへ、まちから川へ



米どころ秋田生まれ、東京育ち。東京・新宿在住。一級建築士、環境再生医、GW三島理事。子どもの頃は毎夏、母親の故郷、大曲で田んぼの畦道を走り回り、用水路に飛び込み、魚取りをし、自然と触れ合う時間を楽しんだ。

40代前半、自然への思いが頭をもたげ始めた折の1989年、源兵衛川親水公園の設計者として三島に関わって以来、三島とは20年にわたる付き合い。その間、境川・清住緑地、ほたるの里、ビオトープなどで住民とともに環境再生活動に携わった。

当初から思い描いていた「川からまちへ、まちから川へ」という夢が実現した今、「自然に還ってこそ人は『ヒト』に戻り、人とのつながりができ、元気になれる」と思う。GW三島の次なる仕事は、「地域の誇りを取り戻しながら協力し合って元気になる、そうした発信をしていき、『地域づくりノーベル賞』第1号になりましょう」

趣味は長いこと「旅」と「音楽」だったが、昨年からは始めた男声合唱に本格的にはまってしまった。「そのうちコンサートをしますから、聴きにきてください」

はやみ ひろゆき
速水 洋志さん

百名山をめざして



福岡生まれ、東京育ち。西東京市在住。技術士（農業土木、総合技術監理部門）、環境再生医、GW三島監事。家族は、娘さん2人が嫁ぎ、現在夫婦と息子さん、愛犬ショコラの「3+1」で過ごしている。

GW三島とは、「渡辺豊博事務局長が大学の後輩に当たることからの付き合いで、『三島ゆうすい会』発足の頃からの長い関わりです。静岡県農業用排水路の設計に携わっていて、GW三島の活動においても専門アドバイザーとして関わっている。

趣味は50年にもなる山登り。これまでは「百名山」にはこだわらずにいたが、年とともに何か数字で残したいと、昨年「百名山」を目指している。現在までは達成したいと思っている。山に登れないときはスキーにあげられるというアウトドア派。



パッション No.9

大切に！水はいのちをつなぐもの

平成14（2002）年、三島市指定上下水道工事店協同組合青年部が組織された際、仕事を通じて社会貢献が出来たらと考え、GW三島に参加した。

毎年6月1日からの「水道週間」には、三島市の水道部と「水を大切にしよう」と市民に呼びかける街頭宣伝活動を行ったり、学校や幼稚園で、節水コマの取り付けや水周りの修理・点検を行っている。

平成19（2007）年には、広川建設と協働で三島梅花藻の里の「水の仕掛け」を設置した。



三島市指定上下水道工事店協同組合青年部部長 安藤 泰晴

グラウンドワーク三島
アクショントーク

FMみしま・かなみボイスキューに、毎週火曜日放送される「GW三島アクショントーク」のコーナーがある。1月からは、I期グラウンドワーク・インターンシップ修了者がゲストとして登場している。「多くの人との交流が出来てよかった」と話す皆さんから、今後の参加者へのメッセージなども聞いた。

第1回 小浜修一郎さん 「遊水匠の会」会長

研修をきっかけに「幼老イキイキ支援隊」を開始。高齢者の話を聞く「声のプレゼンター」、障子の張り替えや電球の取り替えなどもする。「GW Iに夢を持って参加して欲しい。人生の新しい目的を探る場になるはず」

第2回 小松幸子さん 「グラウンドワーク三島」理事

集合研修で高校生との会話から刺激を受けた。OJT研修では「沢地グローバルガーデン草花・生き物ミニ図鑑」を作成した。2008年の洞爺湖サミットがきっかけで、「バイリンガル環境かるた」を通してさらに交流をひろげている。「人との交流を楽しんで、次への一歩、二歩へつなげて欲しい」

第3回 川村結里子さん ビジネスプラン・コンペティション起業支援対象者

プランは、三島の食を中心に情報発信やイベントを企画し、街を活性化するという内容。研修は自分の考えをまとめるきっかけになり、「起業には不安があるが、せつかくの機会だからやるだけやってみよう」と張り切っている。

第4回 「お笑い福祉士めんぼーくん」こと河合孝彦さん 「伊豆の国市劇団いず夢」代表

自分がやりたいと思っていたことが、ソーシャルビジネスになり得ることに気づいた。研修で多くの人から刺激を受けるには、体の受け入れ態勢が必要。「体が緩めば、心も緩む」。II期集合研修初日にはリラックス役として登場。「たくさんの人と仲良くなるために、研修に興味のない人にも参加して欲しい」

グリーン・ジョブ（環境まちづくり）研修

GW三島の実践地とネットワークの中から、箱根西麓（農村部）、中郷地区（都市農村地域）、三島の街中（都市部）というフィールドを活用して、「アグリビジネス」の創出と「にぎわい再生」を学ぶ研修が行われた。



三島梅花藻の里 竹垣修繕



源兵衛川の外来種植物除去

耕作放棄地再生 「三島そば」の分別作業（古農具使用）11/13、小麦のたねまき 11/28、三島農村カフェオープン1周年記念イベント 2/13 **放置竹林再生** 間伐と青竹を活用したものづくり 11/14、間伐・竹加工と活用 11/27
街中環境再生 「ほたるの里」デッキ修繕 12/11、「三島街中カフェ」オープン1周年記念イベントの企画運営 12/12、三島梅花藻の里の竹垣修繕 12/18、源兵衛川ワンデイチャレンジ（外来種植物除去、水辺空間の再生）12/19、1/30、腰切不動尊落慶法要・例祭、沢地グローバルガーデン整備 1/30、街中のにぎわいづくりで竹あかりイベント 2/12
河畔林再生 植林活動、ゴミ拾い、下草刈り 1/29

三島街中カフェの源兵衛川希少種水族館

絶滅が危惧される源兵衛川の魚類や水生生物の飼育、展示、啓発のため、三島街中カフェに「源兵衛川希少種水族館」が開設された。

水槽は3台（大2、小1）設置され、ホトケドジョウ、アブラハヤ、トウヨシノボリ、オイカワ、カワニナなど12種類が飼育されている。管理が行き届いた水槽はきれいで、それぞれの魚の特徴（形、色、模様、動きなど）がはっきり分かる。写真入りカードも展示され分かりやすい。三島街中カフェを訪れる子どもたちの人気の的で、常連の子もいる。



餌や水の交換などは主にボランティアが行っている。専門家や高校の生物部が月1回、水質や魚の種類を調査している。

鎮守の森 探検隊

2月6日、鳥の専門家・滝道雄さんを講師に「冬鳥の観察会」が松毛川で開かれ、22人が参加した。

双眼鏡の使い方の説明後「冬は野鳥の観察に最適であり、今日も20種類くらいの野鳥が観察できると思う」という話に参加者はわくわくして松毛川へ。集合場所（長伏公園）でカワラヒワ、ムクドリ、カルガモ、ハシビロガモ。土手沿いでモズ、ツグミ、カワウ。松毛川でダイサギ、アオサギ、トビ、シメ、カイツブリ、カワセミなど20種類ほどの野鳥が観察できた。滝さんの望遠鏡は大きく高性能で、鳥の表情まできれいに見え感嘆の声があがった。

午後は、昆虫の専門家・加須屋真さんを講師に「ネイチャークラフト教室」がVia701で開催。8人が参加した。

鎮守の森グリーン・プレイ・レンジャー

歴史的・文化的に貴重な「ふるさとの森」松毛川的环境再生活動の一環として行われている、植林活動をはじめ、外来生物や守るべき森の姿についての学習も行っている。
君も樹木博士になろう！ ☂ 御園公民館 2/11
鎮守の森の観察会に出かけよう 神明宮 2/20

3月には、以下のコースが準備されている。
 松毛川千年の森づくりワンデイチャレンジ 3/5、水辺の生きものの世界を見てみよう 3/13、鎮守の森グリーン・プレイ・レンジャー養成講座まとめワークショップ 3/18



座学

源兵衛川エコレンジャー養成講座開催

GW三島は「水の都・三島」の原風景・原体験の再生と復活を目的として、市内50カ所以上でさまざまな活動をしている。最初に手がけたのは、ゴミが放置され、ヘドロが堆積された源兵衛川環境改善活動である。そして絶滅危惧種のホトケドジョウ、ホタルやカワセミが生息する豊かな水辺環境が復活した。

しかし、平成19（2007）年12月に源兵衛川中流部で生コンクリートの流出事故が起こり、多くの魚、水生生物が死滅した。事故直後から3年間、生態調査を行なった結果、事故前の源兵衛川環境が失われているのが明らかになった。

エコレンジャー養成講座は、源兵衛川の生物多様性を守り育てるための維持管理について学び、人材育成を図ることを目的としている。

講座の現場学習では、水量差の変動が激しい源兵衛川の特徴と生態の観察の仕方、植物や水生生物の見分け方、探し方を講師から教わった。参加者の1人は「近隣に住んでいるが、こんなにたくさんの生き物がいて感動した」と述べた。



屋外での講座

	月日	講義名	講師	場所
1	1/11	座学1 源兵衛川再生物語 ～市民団体の取り組み～	都留文科大学教授 渡辺 豊博	Via701
2	1/18	座学2 源兵衛川流域の植物	富士常葉大学非常勤講師 菅原 久夫	Via701
3	1/23	実学1 源兵衛川生態系実習（現場学習）①	富士常葉大学非常勤講師 菅原 久夫 日本野鳥の会東富士支部副支部長 滝 道雄	源兵衛川流域
4	1/26	座学2 源兵衛川流域の魚類	富士常葉大学教授 山田 辰美	三島市民活動センター
5	2/1	座学4 源兵衛川流域の生態系と水生動物	富士常葉大学非常勤講師 加須屋 真 長泉北中学校教諭 遠藤 浩紀	Via701
6	2/5	実学2 源兵衛川生態系実習（現場学習）②	富士常葉大学附属環境防災研究所研究員 関川 文俊 長泉北中学校教諭 遠藤 浩紀 富士常葉大学非常勤講師 加須屋 真	源兵衛川流域
7	2/22	まとめワークショップ 「源兵衛川の生物多様性を守るには？」	都留文科大学教授 渡辺 豊博	Via701

イタリア人は、慌てない

イタリアを旅行して困るのは、13時から16時頃まで、商店が店を閉めてしまうことだ。

南欧特有の「昼食・午睡？」の時間だそうで、時間が限られている旅行者にとっては、何ともありがたくない慣習だ。

それでも近頃は、観光地の店やブランド店などで、昼休みなしの営業も増えてきているとのことだが、フィレンツェからナポリに向かう高速列車「ユーロスター」の食堂車の売店が、途中「休憩時間！」ということで閉められてしまったのには驚いた。

そういえば、「映画館には、上映中に『休憩タイム！』がある」とフィレンツェの日本人ガイドがあきれたように話していたのを思い出した。

彼女によれば、「こちらの人は、慌てない、ノンビリ屋でしてね、電車やバスが遅れても、友だちとピッタリ6時の待ち合わせの筈が、平気で30分遅れてきても、全然気にするところがなくて、私も8年たって、漸くこれに慣れてきた」とのことだった。



その言葉を裏打ちするような例が、エレベーターの中の、「開」「閉」のスイッチだ。

イタリアでは、かなり新しいビルのエレベーターであっても、「閉」がない。

つまり、せっかちに「閉」を押さないということで、ローマあたりの古いビルで、ドアがシャッター式の、開け閉めがもともと「手動」のものは別として、イタリア人は、ドアの開くのを、じっくりと？待っている民族だということだ。

不思議なのは、人通りが多い街ほど、歩行者用の信号がすぐ「黄」に変わること、これは「黄色にしないと、慌ててくれないから」と、なるほどという説明があった。

そういう面で、少しかわいそうだと思ったのは、ローマやフィレンツェのような古都のタクシーの運転手の飲むコーヒーだ。

そうした古都の「パール（軽食も用意してある喫茶店）」の立ち飲みのカプチーノ（コーヒー）は、「ぬるめ」なのだそうで、これは車を二重駐車してコーヒーを飲んでるので、横の車が出そうになったら、すぐ飲み干せるようにとの思惑からきていると言われる。

時間に制約されるのを嫌う「ノンビリ屋！」のイタリア人には、まことに気の毒な話ではないか。



タバッキ(タバコ)も日曜は休みになる

イタリアを縦走るユーロスター

途中で閉められてしまった、ユーロスターの食堂車の売店

「開」はあっても「閉」のないエレベーターのボタン

信号はすぐ赤に変わる

過ぎゆく三島 いつまでも その6

8年間暮らした沼津で生涯を用いた若山牧水 二つの碑

若山牧水（明治18年～昭和3年、1885～1928）歌人。宮崎県東郷町坪谷（つぼや）に生まれた。牧水の名は、母マキ「牧」と彼の生家の前を流れる坪谷川溪谷の「水」から名づけられた。山や海、酒を愛し旅を愛し、生涯それらにあこがれ続けた牧水の歌には彼の飾らない純真な心情があふれ、透明な美しさ、哀しさ、寂しさが胸を打つ。牧水は4人姉弟の末っ子で唯一待望の男の子。若山家は祖父の代からの二代続いた村の開業医で、彼が生まれてからは父の身持ちが直ったというほど父にも愛されたが、彼の生い立ちを知る貴重な随筆「おもひでの記」によると、それ以上に母の愛は限りなかったようだ。

彼は大正13（1924）年8月、千本松原の景観に魅せられて、沼津を永住の地と定め、上香貫より千本浜に転居。同15年、静岡県による千本松原伐採計画に反対し、松原擁護運動の先頭に立ち、新聞にも計画反対を寄稿し、伐採を断念させた。昭和3

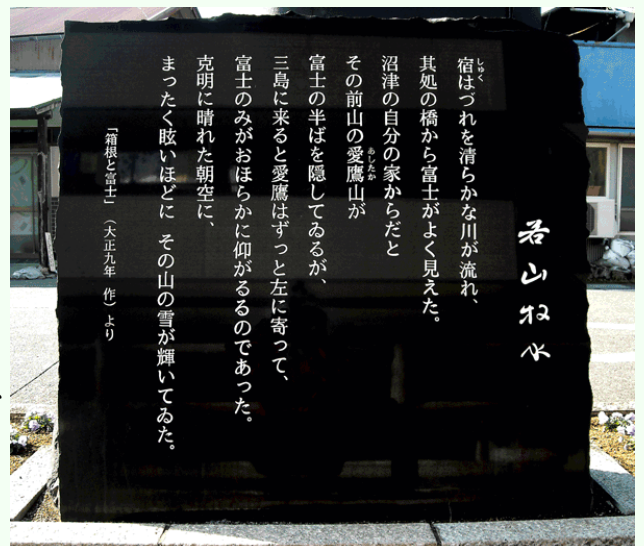
（1928）年9月、自宅で急性腸胃炎兼肝臓硬変症により43歳で永眠。「三島 水辺の文学碑」通りにある右写真の碑は、大正9（1920）年8月中旬、沼津に転居して数カ月後の12月1日、三嶋大社に詣で、旧東海道を箱根方面に向かった折の紀行文の一節です。

のぞみなる

三島のまちのあげ花火

月夜のそらに散りて消ゆなり

大社の鳥居をくぐり神池の右手前にあるこの歌碑は、その翌年の夏、上香貫の自宅からはるか夜空に見える三島夏まつりの花火を歌った一首です。



**ご寄付を
ありがとうございました**

みなさまよりGW三島へ、温かなご支援をいただきました。どうもありがとうございました。

- ・会員や地域・関係者 10万円
腰切不動尊屋根改修のために
- ・フジコー様 50万円
活動資金
- ・キヤノンMJG様 252,848円
「未来につながるさとプロジェクト」
- ・家電・住宅エコポイント 663,814円

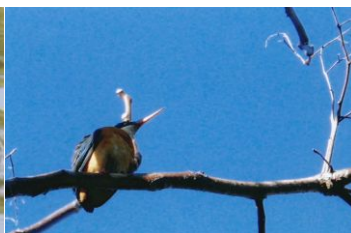
三島市内の写真集

過ぎゆく三島を未来に残すために、あなたが撮った三島市内の風景や風物写真を随時募集しています。GW三島の印刷物に使わせていただくこともあります。

【投稿方法】 撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日、一言添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。 Eメール：info@gwmishima.jp



『オンドリ』H23. 冬
熊井陸さんが三嶋大社で撮影



『私だって下ばかりじゃなく
空を見ることあるのよ』H23. 冬
秋山計人さんが源兵衛川で撮影



『くつろぐ、アフガニスタン
・カプールの方々』H16. 冬
水野幾子さんが中郷温水池で撮影

GW三島活動記録 2010年12月1日-2011年2月28日

月日曜日	事業名	内容	場所	人数
12/11 土	グリーン・ジョブ研修③	ほたるの里整備作業	ほたるの里	19
12/12 日	グリーン・ジョブ研修③	三島街中カフェ1周年イベント	三島街中カフェ	18
12/18 土	グリーン・ジョブ研修④	三島梅花藻の里ワンデイチャレンジ	三島梅花藻の里	17
12/19 日	グリーン・ジョブ研修④	源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ①	源兵衛川中流部	18
12/26 日	広域連携事業	そば打ち教室	Via701	30
1/8 土	Ⅱ期GWI(～9日)	マイナビ転職Expo2011出展	東京国際展示場	4
1/11 火	源兵衛川ER養成講座	座学1 源兵衛川再生生物語	Via701ギャラリー	17
1/16 日	きれいな川と暮らす基金	源兵衛川野鳥観察会	源兵衛川	30
1/18 火	源兵衛川ER養成講座	座学2 源兵衛川流域の植物	Via701ホール	30
1/22 土	Ⅱ期GWI(1/22.23.24)	Ⅰ期エキスパートコース専門研修1	三島市内	17
1/23 日	源兵衛川ER養成講座	実学1 源兵衛川生態系実習(現場学習)①	源兵衛川流域	31
	ホトケドジョウプロジェクト	源兵衛川生態系環境再生ワンデイチャレンジ②	源兵衛川中流部	50
1/26 水	源兵衛川ER養成講座	座学3 源兵衛川流域の魚類	三島市民活動センター	36
1/29 土	キヤノンMJ協働事業	松毛川植林活動	松毛川	10
1/29 土	グリーン・ジョブ研修⑤	河畔林再生活動	松毛川	9
1/30 日	腰切不動尊	腰切不動尊落慶法要・例祭	腰切不動尊	100
	グリーン・ジョブ研修⑤	沢地グローバルガーデン整備	沢地グローバルガーデン	12
2/1 火	源兵衛川ER養成講座	座学4 源兵衛川流域の生態系と水生動物	Via701ホール	40
2/5 土	源兵衛川ER養成講座	実学2 源兵衛川生態系実習(現場学習)②	源兵衛川流域	40
2/6 日	鎮守の森探検隊	⑩冬鳥の観察会 ⑪ネイチャークラフト	松毛川、Via701	8
2/7 月	Ⅱ期GWI(2/7～11)	集合研修A日程	三島市商工会議所など	142
2/11 金	鎮守の森GPR	地域の生態系、生物調査方法(植生)	御園公民館、松毛川	10
2/12 土	広域連携事業	エコ・スタディ・モニターツアー「竹あかりイベント」	三島市内、三石神社、白滝公園	11
	グリーン・ジョブ研修⑥	にぎわいイベント準備等	悠遊工房ひろかわ	12
2/13 日	グリーン・ジョブ研修⑥	三島農村カフェ1周年記念イベント	三島農村カフェ	70
2/20 日	鎮守の森GPR	神明宮の自然観察会、ネイチャーゲーム	神明宮、御園公民館	13
2/22 火	源兵衛川ER養成講座	まどめワークショップ「生物多様性を守るためには」	Via701ホール	30
	環境出前講座	三者合同出前授業	錦田小学校	104
2/25 金	Ⅱ期GWI(2/25～3/1)	集合研修B日程	日本大学国際関係学部	227
	第1回地域再生大賞	「大賞」表彰式	東京・都市センターホテル	5
2/27 日	キヤノンMJ協働事業	エコ・アグリモニターツアー(そば打ち、農業体験)	三島農村カフェ	46

地口行灯&竹あかりイベント開催

朝から雪の降る寒い2月12日の晩、せせらぎシニア元気工房のメンバー手づくりの「竹あかり」100基が三石神社の境内に並んだ。

会場では地口行灯とともに、柔らかなろうそくの明かりが、街行く人々を楽しませた。



国・県・市の議員がGW三島を視察

1月31日と2月2日に、国会議員、県議会議員、市議会議員ら17人が、源兵衛川や三島梅花藻の里、みどり野ふれあいの園などGW三島の実践地を訪れ、協働の現場を視察した。



三島梅花藻の里を視察するみなさん



三島街中カフェでスタッフと

キヤノンMJグループ協働シリーズ

～未来につながるさとプロジェクト～

キヤノンMJグループの社員や家族が、GW三島で社会貢献活動を継続して取り組んでいる。

1月29日には松毛川での植林活動と生態系ミニ講座が、2月27日には「三島そば」のそば打ちと「三島馬鈴薯」の植え付け活動が行われた。



GW三島事務局の新スタッフ



維田 隆一 柴田 龍司

(定例作業)

- 三島梅花藻の里作業・・・12回
- 鏡池作業・・・3回
- 源兵衛川作業・・・3回
- 沢地グローバルガーデン・・・4回

(定例会)

- インストラクター会議・・・3回
- スタッフ会議・・・3回
- 編集会議・・・8回
- 地域社会雇用創造事業・・・3回
- 三島街中カフェ・・・13回

環境出前講座

2月22日、錦田小学校の5年生に、源兵衛川の再生活動に関わった市民(NPO法人GW三島)、企業(東レ(株))、行政(三島市)の三者が、初めて一緒に出前授業を行った。児童からは「これからは僕もゴミ拾いをします」「みんなが協力して、きれいな川になったことがよくわかった」など感想をもらった。



視察来訪者記録 H22.12.1～H23.2.28

月	日	団体名	人数	地域
12	9	九州大学	4	福岡
12	19	東京農工大学	16	東京
1	11	芳川をきれいにする会	6	静岡
1	31	谷谷正明参議院議員他	16	各地
2	2	吉田政司岡山県議員	1	岡山
1	10	島田駅南口周辺地域まちづくり推進会議	35	静岡

グラウンドワーク三島編集室 (50音順)

ボランティアニュース43号の編集ほか

岸野和子 城所祖帝 小松幸子 斎藤彩子 菅野京子 本田博子 前田充子 水野幾子 村澤 圭 山崎多紀子 (GW三島事務局担当: 山田昭子)